

眼科シニアレジデントプログラム

1. 特色とスタッフ紹介

地域基幹病院の眼科として眼疾患全般を扱っています。また、病院が救急に力を入れており(京都 ER)眼科専門領域での外傷、緊急疾患に対処しています。

医師は3名。中村精吾(平成6年卒。眼科専門医。網膜硝子体が専門) 森久保聡一(平成10年卒。眼科専門医。緑内障が専門) 山内紀子(平成15年卒。白内障が専門) 外来延患者数 16232人、手術件数 437件(平成17年度)。多彩かつ多数症例に携わることで、幅広い知識と技能を習得し、自立した眼科医の育成を目指します。

2. 研修期間

4年

日本眼科学会専門医試験の受験には、以下の条件が必要です。

1. 認定された研修施設で5年以上研修を終了した者。あるいは厚生労働省の定める卒後臨床研修(2年間)終了後、認定された研修施設で4年以上研修を終了した者。即ち卒後臨床研修を含め6年以上の臨床経験を終了した者。または委員会がこれと同等以上の知識および技能を有すると認めた者。
2. 4年以上日本眼科学会会員であり、かつ受験時に日本眼科医会会員である者。

3. 目標

一般目標 GIO

日本眼科学会専門医制度の眼科研修医ガイドラインに基づき、臨床基礎知識、診断および検査と主要疾患の治療(非観血、手術)の技能、および臨床に関わる法知識を習得する。そして研修4年終了時には、専門医取得を目標とする。

1年目

外来: コメディカルと共に眼科一般検査(屈折、視力、眼圧、視野など)を行える。

検査機器の取扱いができる。

視覚障害を有する患者とのコミュニケーションがとれる。

治療: 非観血治療(点眼、洗眼、眼注射、ブジー、眼鏡、コンタクト)ができる。

入院: 入院患者の術前・術後管理、検査・治療ができる。

手術: 手術機器の取り扱い、手術助手ができる。

霰粒腫摘出、翼状片切除、内反症等の外眼部小手術執刀ができる。

(能力に応じて)超音波白内障手術のパートを担える。

2年目

外来: 主に再診患者を担当し、主要眼疾患のフォローができる。

慢性疾患の管理と悪化時の対処が行える。

特殊検査(蛍光眼底撮影など)を施行できる。

治療：各種レーザー治療が行える。

手術：指導のもと白内障執刀ができる。緑内障、網膜硝子体手術のアシストができる。

3、4年目

外来：初診も担当し、主要疾患の検査の計画、診断、治療方針の決定が行える。

自身の技量を理解し、必要時には上級医との相談、指導を仰げる。

手術：手術適応を判断し、単独で安全に手術が行える。

白内障難症例の対処ができる。

能力に応じて、緑内障、網膜剥離、硝子体手術の執刀ができる。

4. 方略

LS1：OJT

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM	外来業務	外来業務	症例検討 外来業務	外来業務	症例検討 外来業務	外来業務
PM	特殊検査	手術	特殊検査	手術	コンタクト レンズ外来	特殊検査

随時必要時に症例検討を行う。

時間外緊急手術あり。

手術については、執刀、助手を合わせて総数100例以上。そのうち、外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上を行う。

LS2：勉強会

第3週火曜 院内症例検討会、セミナー

LS3：学術活動

年2回、眼科集談会参加。年1回全国規模の学会参加。

研修期間中に眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上、

および学会報告を演者として2報以上を発表。

5. 評価

眼科専門医制度委員会の申請用紙に準じて経験症例、手技を記載し、到達度を確認する。